

実体経済： 「フレンドショアリング」と米国貿易の新時代

RSM US Newsletter Vol.3

経済学：実体経済

2024/2/6

翻訳：RSM 清和監査法人

キーポイント

- 地政学的緊張が高まりインフレが常態化した結果自由貿易と経済関係は悪化。
- 同盟国との貿易関係を促進する「フレンドショアリング」の新時代が到来。
- 昨年2月以降、米国の貿易全体が減少傾向にあるなか対中貿易の減少は特に顕著。

ハイパーグローバル化の時代は、米国が2017年に開始した貿易戦争とともに幕を閉じた。それに代わり、世界貿易の流れは2022年11月までに細分化され、米国の対メキシコ、対カナダ貿易が対中国貿易を上回るまでになった。

さらに、世界中で政治的リスクが高まり、インフレが常態化した結果として、自由貿易と経済関係は悪化している。

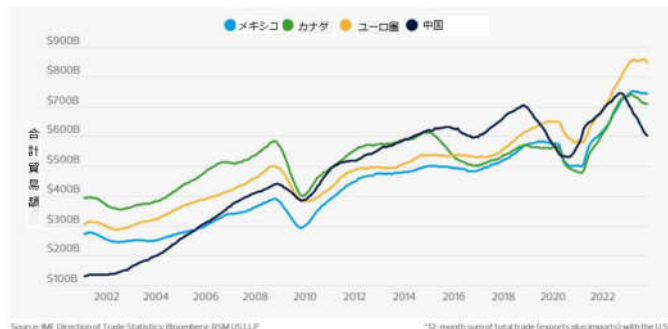
同盟国との貿易関係を促進する「フレンドショアリング」の新時代が到来している。

このような貿易の進化は、米国が自国の技術基盤を保護し、グローバルサプライチェーンの信頼性を高めようとしてきたため、国家安全保障上の懸念が一因となって発生している。

昨年2月以降、米国の貿易全体が減少に転じているが、特に対中貿易の落ち込みは顕著である。2023年第3四半期には年率18%に迫る勢いで減少している。

世界的な貿易減速は、2年間の金融引き締めによって拍車がかかった一面はあるが、それ以上に、グローバルサプライチェーンの再編が起こった中国による影響が大きい。

その結果、米国近隣の海外貿易国、例を挙げると、ユーロ圏、イギリス、日本、韓国といった国との貿易額は、今や対中貿易額の5倍近くに達している。



出典：国際通貨基金Bloombergより、RSM US LLP作成

*対米貿易総額（輸出＋輸入）の12ヵ月合計。

信頼性

中国政府や中東の権威主義的政府との取引とは反対に、欧米の民間市場参加者との取引には利点がある。

近年の地政学的な分断や新型コロナウイルスのパンデミックの経験は、企業がサプライヤーを多様化するようになったきっかけを与えた。

例えば、欧米では民間企業が協力してパンデミック中にワクチン開発に取り組んだ一方で、中国では政府が単独で行った。そして、効果があったワクチンの効果が現れなくなるまで国産ワクチンの使用を命じた。

「フォーブス」誌に掲載された分析によると、中国の経営者たちは人口密度の高い生産・生活拠点に内在する超感染拡大リスクを十分に認識していた。2020年に始まったコロナウイルスの流行はどうか切り抜けることができたものの、2022年初頭の上海のロックダウンは、特にハイテク分野にとっては転機となった。

誌面は、強引で予測不可能な政策が中国の製造業に対する信頼失墜の原因であったと続けている。その時点までに供給基盤の多様化に本腰を入れていなかった場合、上海の都市封鎖によって劇的な変化を被ったということである。

コスト

中国サプライヤーの突然の信頼性低下だけでは不十分だとすれば、2021年から2022年にかけての莫大な海運コストの上昇と紅海での敵対行為による最近の海運コストの上昇もすべて多角化の原動力となる。

グローバルサプライチェーンの価格が不安定になり、特にエネルギー価格が高騰したことで、供給ルートを短縮せざるを得ない状況になったのだ。

2021年の需要回復期には、ヨーロッパからの輸送コストは確かに上昇した。このコストは2022年を通して高止まりしていたが、これはウクライナ戦争によるエネルギー価格の高騰が原因である。

しかし、ロッテルダムからニューヨークへの輸送コストは現在、2019年よりも低くなっており、上海からロサンゼルスへのルートよりも45%低くなっている。

企業の安全保障と国家の安全保障

アジアから北米に生産拠点を移す大きな理由は、国家安全保障である。中国の台湾に対する攻撃的な言動や香港における弾圧は、控えめに言っても不穏なものだ。しかし、その攻撃性が米国企業の短期的な収益性にどのような影響を及ぼしているかを数字で明確に示すことは難しい。

それでも、経済問題と国益への懸念とを切り離して考えることはますます難しくなるだろう。ジャネット・イエレン財務長官が2022年に述べたように、ロシアのウクライナ侵攻以降、米国の貿易政策の近代化、経済統合の深化、効率性の向上はすべて、サプライチェーンのフレンドショアリングを指向する理由になっている。

過去2年間の地政学的な出来事を振り返れば、信頼できる国々との経済統合が米国経済のリスク低下につながる事が推察できる。

北米での自動車生産では、その過程で車体は5回もカナダ国境を行き来すると言われており、このような統合のメリットは長きにわたり知られている。そして、我々はメキシコや中米とのさらなる統合は移民問題の解決にもつながるだろうと提言している。

最近の貿易データはフレンドショアリングへの移行を示している。米国の貿易データは、経済のさらなる統合と多様化、ひいてはサプライチェーンの強化に向けた政府と民間企業の努力を裏付けている。しかしながら、長期的にはフレンドショアリングは中国発のサプライチェーンよりも安価で信頼性が高いと証明された場合にのみ継続していこう。

まとめ

世界各地で貿易・安全保障ブロックが形成され続ける中、経済・金融・貿易関係の分断はもはや常態化している。フレンドショアリングは、グローバル経済の競争と協調を考える上でより大きな意味を持つことになるだろう。

グローバル経済で事業を展開する企業は、新たな政治的リスクに加え、通常のサプライチェーン、金融、経済的課題も管理しなければならなくなる。

グローバルに活動する企業は、地政学的な不安定性によって引き起こされる国際経済・金融変動へのリスクヘッジのために、ほぼ間違いなく余剰人員を削減し、その国の方針に従うという結果になるだろう。

数世代にわたった国際的な経済統合が終わり、安全保障上の懸念と政治的リスクの新時代に牽引される地域貿易が形作られたのである。

著者



ジョー・ブルセラス氏
チーフエコノミスト
[経歴の参照先](#)

当ニュースレターは、RSM USの英文ニュースレターの翻訳版です。日本語訳と原文（英文）に差異が生じた場合には、原文が優先されます。

記事の出典：

<https://rsmus.com/insights/economics/friendshoring-and-a-new-era-of-us-trade.html>

ご質問等は下記までお願いいたします
ウェブサイト：rsm.global/japan/audit/contact